

- 21世紀の日中関係に向けた人材育成 培養新世纪推动日中关系发展的人才
- 21世紀の日中関係に向けた相互理解の深化 加深相互理解促进日中关系健康发展
- 21世紀の日中関係への提言 为构筑新型日中关系出谋划策
- 世界発信を準備する社会の醸成 日中携手向全球传递信息

基本ガイドライン



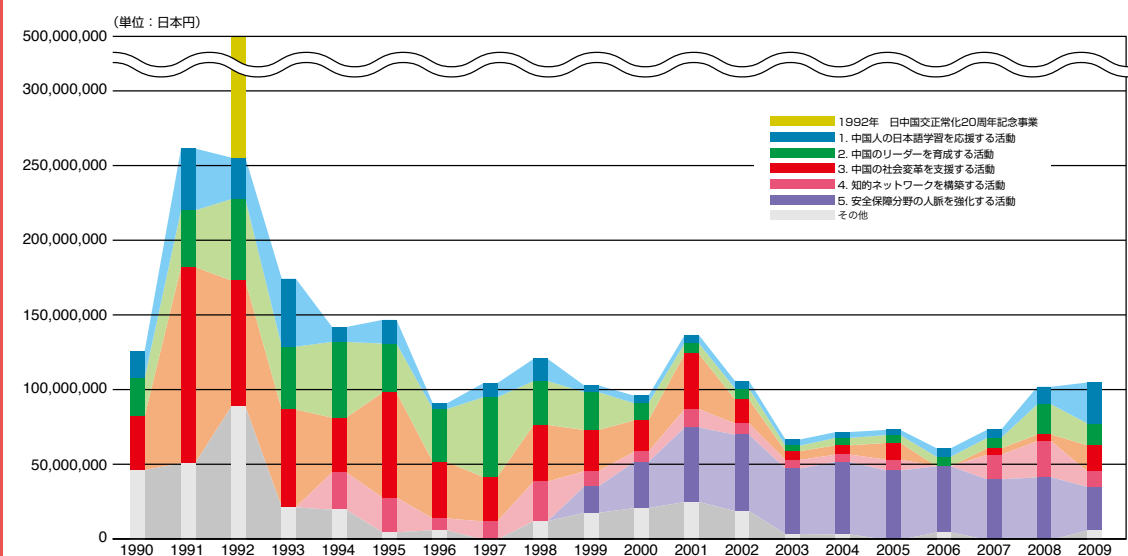
笹川日中友好基金は1989年に設立されました。以来現在までに実施してきた事業数は、おおよそ300、投じた事業費総額は26億5426万円。基本ガイドラインとして「人材育成、相互理解、社会提言、世界発信」を掲げ、日本と中国のあいだに横たわる問題の数々について解決方法を考えながら、関係者のみなさまと力を合わせ、ひとつひとつ事業を積み重ねてまいりました。

笹川日中友好基金自1989年成立至今，已经实施开展了各类项目近300个。今后基金仍将本着“育人才、促理解、重合作、创未来”的基本方针，积极探讨日中关系中的重要课题，努力寻求合理有效的实施方法并不断推出更多面向未来的创新型项目。

設立から20年を経た今日、これまでに実施してきた事業を振り返ってみますと、わたしたちがやってきた仕事は、おおまかに以下の5つに集約することができます。

进入2010年，我们大致可以从以下五个方面对基金在这20年当中展开的活动进行总结。

1. 中国人の日本語学習を応援する活動（日语教育支援）..... 事業費総額 2億 6891万円
2. 中国のリーダーを育成する活動（领导人才育成）..... 事業費総額 4億 7491万円
3. 中国の社会変革を支援する活動（社会改革支援）..... 事業費総額 6億 8172万円
4. 知的ネットワークを構築する活動（学术交流）..... 事業費総額 2億 0043万円
5. 安全保障分野の人脈を強化する活動（防务交流）..... 事業費総額 4億 4363万円



事業費総額でみると、1990年代は改革開放で発展を遂げる中国社会に日本のノウハウを提供するなど、中国の社会変革を支援する活動が中心でした。2000年前後からは、安全保障分野の人脈を強化する活動が中心となっています。また、一貫して、中国のリーダーを育成する活動、知的ネットワークを構築する活動、中国人の日本語学習を応援する活動に取り組んできました。

从事业费表格的走向来看，90年代项目重点是支持中国改革开放和社会发展。进入21世纪后，开展两国防务领域人员交流则成为主流。另外，培养人才和开展学术对话以及支援中国的日语教育则一直是基金活动的主线。

中国人の日本語学習を応援する活動 日语教育支援

中国で日本語を学んでいる学生を応援してきました。具体的には、奨学金の授与、学生の来日招へい、教材開発、日本語教師の中国派遣などです。

该项工作主要是向中国的日语学习者提供帮助，包括发放奖学金、接纳来日学生、编撰教材、向中国派遣日语教师等几个方面。工作的宗旨在于培养对推动未来日中关系有用的人才。

272 第3期日本語学習者奨学金 第3期日本語学習者奨学金

事業年:2008年度
実施者:中国国際友好聯絡会(中国)
事業費:6,838,000円



日本語学習者奨学金事業は、1995年に第1期を開始して以来、合計1400名以上の学生に総計250万円あまりの奨学金を支給してきました。2008年度は90名に、年間4000円の奨学金を支給しました。

此项工作旨在通过对中国大学学习日语的本科生及研究生发放奖学金，提高其日语学习兴趣，为将来日中两国人才的培养做贡献。工作开展以来已进入第十三个年头，本项奖学金获得人数达1400多人。今年总计对90人进行了奖学金发放，其中，北京外国語大学、上海外国語大学、大连外国語大学、四川外国語学院、广东外语外贸大学各10人，广西大学、西北大学、湖南大学、贵州大学、南京大学、黑龙江大学、厦门大学、山东大学各5人，每人4000元。



283 日本語教材開発支援 资助日语教材的编著

事業年:2009年度
実施者:北京日本学研究中心(中国)
事業費:8,100,000円



中国の大学で日本語学習者数が急増している現状をふまえ、大学用日本語教材開発に対して支援をしました。

笹川日中友好基金从设立之日起就积极推进日语教育相关事业的发展。比如，选派150余名日语讲师到中国的大学支援教学，引进大学中的优秀日语人才，给中国大学中的1400余名日语专业学生提供了奖学金等等。在这些措施实施过程中，进入21世纪，在中国学日语的大学生所处的环境已经发生了很大的变化。优先支援的对象转变成与日本交流不发达的地方大学的学生，重点改善他们学习日语的条件，促进对日本的理解。



286 地方大学における日本語学習者の日本研修 地方大学日语专业学生的在日研修

事業年:2009年度
実施者:中国教育国際交流協会(中国)
事業費:16,500,000円



2009年度から開始した事業。中国の地方大学で日本語を学ぶ成績優秀な学生を日本に招く事業。20名の学生が約1ヶ月にわたって研修を受けました。



目前在中国，比如在北京和上海等沿海地区，有大量日本企业进驻，日本人增多，在当地学习日语的中国大学生和日本人直接接触的机会也随之增多。被选拔访日研修的学生将在提高自身日语能力和加深对日本的理解后回国，这是毋庸置疑的。但是，我们特别考虑到的是，他们回国后同时应让周围的同学真正感受到有能够去日本的机会，能让大家切身感受到日本，提高学习的欲望。因为有上述想法，笹川日中友好基金帮助由中国教育部直属的中国教育国际交流协会在中国的西北、西南、华中、东北地区的日语专业学生中选拔成绩优秀者，提供在日本为期一个月的研修机会。



2 中国のリーダーを育成する活動

领导人才育成

中国で社会的な影響力があるか、そうなる可能性の高い人々に働きかける活動を行ってまいりました。たとえば、中国の地方行政や、外交、報道などに関わる人々を日本に招聘し、会議、調査、研修の機会などを提供してきました。将来、良好な日中関係をリードする人材を育てることが目的です。

该领域项目主要针对在中国社会有一定影响力，或是有这种潜质的人士。我们希望通过访日考察、研讨会、讲座等方式来培养利于日中友好的领导人才。

266

中国市長訪日交流

中国市長訪日交流

事業年：2007年度
助成 中国国際友好聯絡会
2007年度事業費：6,962,819円



中国の地方都市の市長に日本の地方行政を視察してもらう事業。1990年度から2008年度まで、ほぼ毎年テーマを決めて実施しました。2007年度には「生態系・環境保護と都市の調和発展」をテーマに、青海省西寧市副市長ら中国内陸部西北地方の市長・副市長7人を招きました。

本項目以为中国的地方城市市长提供视察日本的地方行政的机会，给中国的地方城市行政提供参考作为目的，自1990年开始实施，至此已接受了17次的访日代表团。在经济持续高速增长的中国，伴随着开发而产生的生态环境的恶化，经济和环境保护的协调发展成为最大的课题。因此，本年度以生态・环境保护和城市的和谐发展为主题，自2007年6月27日至7月5日，邀请了以青海省西宁市副市长为团长的中国内陆西北部的市长及副市长共7人赴日访问。



281

中国若手ジャーナリスト招へい

中国年轻新闻工作者访日交流（2008年度）

事業年：2008年度
実施者：笹川平和財団、
：清華大学清華-日経メディア研究所
事業費：6,934,406円



中国人の日本イメージに影響を及ぼす、メディアの報道。そこで、2008年度から中国のインターネット上で活躍する若手ジャーナリストらを日本に招へいし、現代日本を直接知ってもらう事業を開始。東京都内各所や、京都、広島、大阪などを視察・訪問したり、日本人との交流機会を提供しました。



随着日中关系的改善，中国人民的对日感情开始出现回温的迹象，然而草根阶层对日本依然怀有强烈的不信任感，最有代表性的现象就是网络舆论对于四川大地震中日本自卫队派遣运输机及东海油田开发等问题的谴责。如何加深中国人对日本的了解依然是当务之急。由于一般中国百姓的对日印象形成于媒体导向，本项目着眼这一事实，在中国募集年轻记者，为他们提供与现代日本社会零距离接触的机会，以期为他们创造一个能与日本同行及其他各界人士平等对话的平台，使其有机会了解客观真实的当今日本。2008年是该3年连续项目实施的第1年。在清华大学清华日经媒体研究所的鼎力支持下，我们选出12名活跃在网络上的年轻记者。

279

次世代リーダー招へい

新一代领导干部访日

事業年：2008年度
実施者：笹川平和財団、中国国際友好聯絡会
事業費：7,517,157円

2008年度から新たな招へい事業の試みとして開始した事業。「食の安全」に関わる中国政府関係の中堅実務者ら合計18名を日本に招き、シンポジウムなどを実施しました。

长期以来，为促进日中两国间的相互理解及相互信赖，两国政府和民间团体组织开展了各种类型的访日交流项目。然而，由于对人选和具体需求了解不够充分，有许多项目还需要进一步改善。总结经验教训后，为能给今后各种访问项目起到引导作用，本基金决定实施“新一代领导干部访日”项目。



3 中国の社会変革を支援する活動

社会改革支援

1990年代、改革開放政策によって急激な社会発展を遂げました。その過程で発生した問題や必要とされたノウハウなどを、日本から伝授する活動を行ないました。中国の各界の人々を日本に招へいし、交流・研修を行ないました。また、日本の専門家に依頼し、調査、研究、会議、研修などをおこないました。

该业务致力于发现并思考中国社会存在的各种问题，邀请专家亲赴现场调研，发布研究成果，并就问题的解决方案建言献策。业务涵盖政治、经济、教育、文化等各大领域。

064

中国企業集团訪日交流

考察日本金融市场

事業年：1993年度
実施者：中国国際友好聯絡会（中）
事業費：10,502,667円

国家計画委員会の責任者と企業集团の経営者らを日本に招へいし、日本の企業集团経営について学んでもらった事業。大手企業を訪問するなどし、日本の企業集团経営の実践的なノウハウを伝えました。

在中国企业集团迅速发展的背景下，中方希望在日本就企业集团经营进行学习。本项目邀请了由国家计划委员会的负责人和企业集团的总经理组成的13人团体到日本。访问团访问了第一劝业银行、野村证券、三菱商事、伊藤忠商事、丰田、日本航空、大荣株式会社、东洋纺织等，并学习了关于企业集团经营的实践性的技术秘诀。



190

企業診断制度導入のための専門家交流

中小企業咨询师制度赴日考察

事業年：2000年度
助成 中国国際友好聯絡会（中国）
2000年度事業費 6,777,227円

日本の企業経営のノウハウを中国の中央・地方の中小企業行政関係者や経営者代表らに伝えた事業。日本の企業診断士制度について、日本で学んでもらいました。

此项工作的目的是，学习日本的相关工作经验，比如企业诊断师制度、企业诊断师的培养方法、资格认定制度和实际的企业调查经验，通过学习为中国的企业诊断师制度的设立提供参考。国家经济贸易委员会作为此项工作的负责人，从2000年6月12日到21日，带领包括吉林、新疆、内蒙古、湖北、浙江、上海、福建、河南各地的中小企业行政负责人以及经营者代表一行15人访日考察。



195

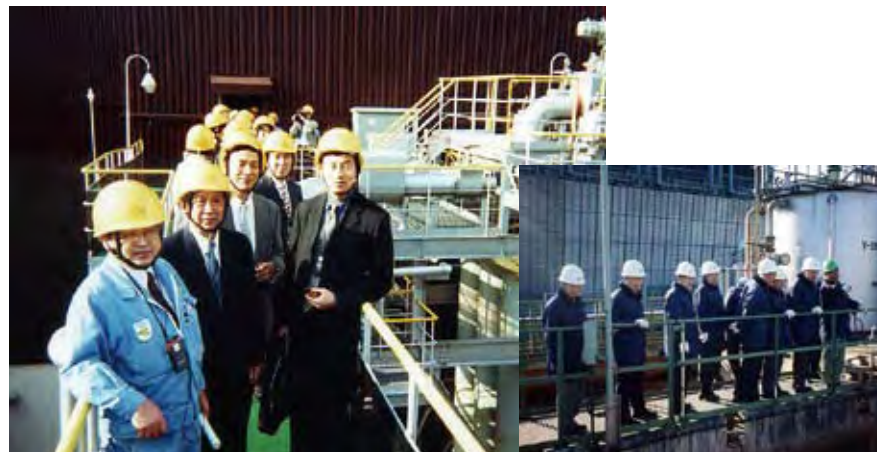
環境政策形成調査

环境立法访日调查

事業年：2000年度
自主・委託 笹川平和財団、北京地球村（中国）
2000年度事業費：5,853,437円

中国の政策立案担当者に、公害関連法規の整備と環境係争などにかかわる調停システムなど、環境政策について学んでもらいました。

中国共产党中央政策研究室、国务院及国家环境保护总局的政策制定负责人等9人，从2001年2月19日到28日，为了对环境相关法律、法规的制定进行调查，访问了东京都、新潟县、三重县四日市市。调查的主要项目是，与公害相关的法律、法规的整顿和调停环境纠纷的相关制度，与总量控制相关的中央到地方的法律、法规的整顿和实施。访日成员回国后，召开了总结大会，将访日的成果反映到中国的相关法律法规的制定中，向国务院和党中央政策决定机关提出了有关环境政策的建议。



知的ネットワークを構築する活動

学术交流

日中両国の大学などに属する知識人同士のネットワーク作りを行ってまいりました。たとえば、北京大学国際関係学院への援助や、各種のシンポジウム、会議などを行うことで、日中の研究者・専門家間の対話の場を増やしてまいりました。

该业务旨在增进日中两国教育研究机关专家之间的交流，构筑学术交流网络。比如，我们帮助北京大学国际关系学院培养人才，举办研讨会等各种活动，以此来促进两国学者的沟通交流。



日中両国の大学から、政治・外交分野の若手日本研究者約 30 人を集め、「現代日本の社会思潮」をメインテーマに、北京で国際会議を開催しました。この会議の成果は、書籍としても刊行されました。

蔣立峰主編『当代日本社会思潮』北京：世界知識出版社、2001 年

1999 年开始对青年日本研究者的研究交流活动提供支援。作为其中的一个环节，2000 年召开了“第二届青年日本研究者论坛”。本年度的论坛，由中国国际友好联络会与中国社会科学院日本研究所主办，以“当代日本的社会思潮”为主要议题，于 12 月 17 日至 20 日在北京召开。论坛结束后，以中国社会科学院日本研究所为中心，选出了 19 篇论坛上发表的优秀论文，编纂了《第 2 届青年日本研究者论坛论文集》。



日中平和友好条約が結ばれた 1978 年から 2008 年までの日中交流について、中国社会科学院を中心にまとめる研究活動を助成しました。また、関連するシンポジウムを北京と東京で開催しました。同書は日本でも翻訳出版されました。

王新生編『中日友好交流三十年 政治卷』北京：社会科学文献出版社、2008 年
張季風編『中日友好交流三十年 経済卷』北京：社会科学文献出版社、2008 年。
黄大慧・周穎昕編『中日友好交流三十年 文化教育与民間交流卷』北京：社会科学文献出版社、2008 年
歩平編（高原明生監訳）『中日関係史 1978-2008』東京大学出版会、2008 年



255 日中若手歴史研究者会議 中日青年历史学术会议

事業年：2005年度
自主 笹川平和財団
委託 早稲田大学東アジア研究所（日本）
2005年度事業費：7,299,274円

歴史学者による対話と歴史資料の共有を促すため、2001 年度から 5 年間の継続事業として「日中若手歴史研究者会議」を発足させました。さらに 2007 年度からも「日中若手歴史研究者会議／フェーズ II」として、ひきつづき対話を継続しています。

本事業の成果は、書籍として刊行されています。
劉傑・三谷博・楊大慶編『国境を越える歴史認識 日中対話の試み』東京大学出版会、2006 年
劉傑・三谷博・楊大慶編『超越国境の歴史認識 来自日本学者及海外中国学者的视角』北京：社会科学文献出版社、2006 年



劉傑・川島真編『1945 年の歴史認識 終戦をめぐる日中対話の試み』東京大学出版会、2009 年
劉傑・川島真編『1945 年の歴史認識 圍繞“終戦”の日中対話の試み』北京：社会科学文献出版社、2010 年

1980 年代以后，中国和日本围绕历史认识问题在外交上反复产生对立，其结果是严重损害了两国人民的相互信赖关系。尽管已经指出不少产生历史认识对立的原因，但主要原因有以下几个方面：历史学者间较少的学术交流，日中两国共有的历史史料不足以及对对方国家的历史观和历史研究的方法的关注度不够。基于这样的认识，笹川日中友好基金从 2001 年开始实施 5 年连续项目“日中年轻历史研究者会议”。5 年期间，我们举行过定期研究会，相互派遣研究者，进行调查研究，开办国际研讨会等活动。项目的成果被收入了《超越国境的历史认识 来自日本学者及海外中国学者的视角》以及《1945 年的历史认识 围绕“终战”的中日对话尝试》等书，在日中两国出版。

安全保障分野の人脈を強化する活動

防务交流

安全保障はそもそも政府間の重要課題です。しかし、政府間関係は時として不安定になることがあるため、民間が取りもつチャネルによって信頼関係を恒常的に醸成することが必要と考え、日本の自衛隊と中国の人民解放軍という、両国の国防部門をつなぐチャネルづくりの活動に力を注いでまいりました。

为了构筑更为稳定的防务关系，除了政府，有必要通过民间渠道来建立长久稳定信赖关系。这是本基金和民间友好基金所特有的贡献领域。该业务致力于构筑一条日本自卫队和解放军相互沟通的民间渠道。

191 日中安全保障研究交流 日中安全保障项目研究交流

事業年：2000年度
自主 笹川平和財団
委託 社団法人 アジアフォーラム・ジャパン
2000年度事業費：15,650,845円

2000 年 10 月、橋本龍太郎元首相を団長に日本の安全保障専門家 10 人を中国に派遣しました。一行は、北京、上海近郊の軍関連施設を視察、さらに橋本元首相と江沢民国家主席が会見し、民間による安全保障交流の重要性について確認すると同時に、今後の交流促進の方法を協議しました。



此项工作一直被誉为二轨交流，旨在促进来自民间的本领域的交流。2000 年 10 月 25 日开始，以桥本龙太郎前首相为首的日本安全保障专家 10 人来到中国进行了为期 4 天的视察访问。桥本前首相一行视察了北京、上海近郊的军事相关设施，27 日桥本前首相与江泽民主席会见，就民间安全保障交流的重要性进行了确认，并商讨了今后如何促进双方防务领域中中青年军官的人员互访交流。



260 日中国防関係者交流／フェーズII 第 2 期中日防务界人士相关交流活动

事業年：2006年度
自主 笹川平和財団
2006年度事業費：28,246,658円

両国の若手国防関係者の交流と対話の場を確保し、将来に向けた安定した日中関係の構築と双方の安全保障分野の信頼醸成の増進を図ることを目的とする本事業は、過去 6 年間、両国の現役佐官級将校の相互訪問研修を継続して実施してきました。フェーズ II 初年度である 2006 年度には、自衛隊佐官級 23 人が、2006 年 6 月 25 日から 7 月 6 日に北京、麗江、湛江、広州で研修・交流を行いました。

在日中两国间政治关系陷入僵局，政府间交流受挫的情况下，确保两国年轻的防务人员的交往，为他们提供对话场所，构筑面向未来的稳定的日中关系以及增进双方在安全保障领域的信赖关系就成了本项目的目的。在过去的 6 年间我们一直在推进两国现役校级军官互访研修活动。2006 年是项目第二阶段的第一年，自卫队校级军官 23 人于 2006 年 6 月 25 日至 7 月 6 日在北京、丽江、湛江、广州进行了研修和交流。一行对中央军委军事委员会副主席徐向厚和中国国际战略学会会长进行了礼节性拜访，视察了海陆空部队，对国防大学防务学院、中央党校、北京大学国际关系学院进行了访问。



206 日中安全保障対話促進 日中安全保障対話

事業年：2001年度
全体助成 中国国際友好聯絡会（中国）
2001年度事業費：10,210,829円

2001 年 12 月、北京で「北東アジア安全問題シンポジウム」を開催しました。中国側からは、国防部、総参謀部、総政治部、国防大学、軍事科学院および大学や民間団体の専門家、日本側からは国会議員、自衛隊佐官級幹部、防衛研究所、防衛大学校と民間の研究者らの訪中国が参加しました。会議の内容は報告書にし、中国の国防部、外交部などの関係者に配付しました。



本項工作的主要内容是，向自卫队以及包括中国人民解放军干部在内的日中防卫关系相关人员、安全保障问题研究人员通过民间渠道提供对话的机会。2001 年 12 月 4 日至 5 日，在北京召开了“东北亚安全问题研讨会”。中方有国防部、总参谋部、总政治部、国防大学、军事科学院以及大学和民间团体的专家参加，日方有国会议员、自卫队校



官级干部、防卫研究所、防卫大学校和民间研究员组成的访华团参加。活跃在日中两国防卫第一线的相关人员就地区安全保障问题，美国恐怖袭击以后日中防卫合作的方法，台湾问题等进行了热烈的讨论。